

平成30年度老人保健健康増進等事業実施計画書

公立大学法埼玉県立大学

① 事業名	訪問・通所リハビリテーションのデータ収集システムの活用に関する調査研究事業
② 事業実施目的	<p>【本事業の背景と経過】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「通所・訪問リハビリテーションのデータ収集システム（以下「VISIT）」は、リハビリテーション（以下、リハ）マネジメントに係る計画書等の情報を収集し、分析した結果を利用者及び事業所へフィードバックし、その質の向上に寄与することを目的としたものであり、平成29年度から運用が開始されている。 ・平成29年度老健事業では、ア) VISITで収集するデータの活用方策、イ) VISITデータの分析方法、ウ) 利用者及び事業所へのフィードバック方法等について有識者等による委員会を開催し検討してきた。 ・平成30年の介護報酬改定にて、VISITによるデータ提供が加算要件に加えられるなど、VISITの活用が今後本格化していくと見込まれている。 <p>【本事業の目的】</p> <p>これまでの経過を踏まえ、リハの質向上への貢献を目指し、以下の3点の検討・検証を本年度行うこととする。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. VISITにて収集されたデータの利用者・事業所へのフィードバック方法（試行版）を確定する（「手引き」の作成を含む）。 2. 協力事業所（訪問・通所リハ事業所）にて1の方法論を説明・実践し、その効果と課題を検証し、方法論の見直しを行う。 3. 新様式（計画書など）で収集されるデータの活用方法について検討・提案する。
③ 事業概要	<p>厚生労働省は、平成27年4月にリハ及びリハマネジメントの機能強化を図るため、各種見直しを実施した。さらに、その質評価と改善に向け、平成28年度にVISITを構築するとともに、平成29年度から運用を開始、同年の老健事業の中で、収集したデータの活用方法や利用者及び事業所へのフィードバック方法の検討を行った。</p> <p>平成30年の介護報酬改定では、VISITによるデータ提供がリハマネジメント加算の要件に加えられたことから、今後、VISITの活用が本格化していくと期待されている。</p> <p>しかしながら、現在は一部協力事業所を対象とした試行的運用の段階であり、本格的運用を展開するためには、VISITで収集されたデータのフィードバックの方法（試行版）を確定し、方法論の説明を受けた協力事業所にて試行し、有識者にとる評価を経て、よりよい方法論に改善していくといったプロセスを経る必要がある。</p> <p>また、平成30年の介護報酬改定にて、様式（計画書など）の見直しが行われたことから、新様式にて収集されるデータの活用方法、ならびに他のデータベースとの連動などの検討も必要となる。</p>

	<p>そこで、本事業では、以下のことを行うこととする。</p> <p>1. VISITデータのフィードバック方法（試行版）の確定と手引きの作成 平成29年度の老健事業において、VISITデータの利用者・事業所へのフィードバック方法の検討を行い、方法論の提案を行った。本年度は、昨年度提案した内容を有識者会議にて再検討し、方法論を確定させる（試行版）。 その上で、利用者へのフィードバック情報の活用方法に関する手引きの作成を行う。</p> <p>2. 協力事業所での試行と評価 リハ3職種の職能団体とも連携しながら、協力事業所の募集を行う。その上で、利用者へのフィードバック情報の活用方法に関する手引きをもとに、方法論の共有を図る。 次に、臨床の現場にて方法論を実践し、その有用性の評価を行う。なお、評価は、利用者及びリハ職向けアンケートにて、また、アンケート内容に関しては、有識者会議にて検討する。</p> <p>3. 有識者による評価ならびに課題の整理 協力事業所での試行ならびにアンケート結果をもとに、有識者会議にて評価を行う。主な評価項目は、①利用者にフィードバックする様式（試行版）の内容・項目について、②フィードバック方法についてである。</p> <p>また、昨年度の老健事業では、利用者へのフィードバックの様式として、①利用者の状態像の変化に着目をしたもの、②リハマネジメントの思考プロセスに着目をしたものの2種類を提案している。</p> <p>後者の帳票を評価することで、リハマネジメントの思考プロセス上の課題も抽出できる。事例ベースでのリハマネジメントの質の検証も併せて行う（作業部会にて）。</p> <p>4. 新様式の活用に関する検討 新様式（計画書など）で収集されるデータの活用方法について、委員会にて検討を行う</p>
⑤ 事業実施予定期間	平成31年3月31日 まで
⑦ 事業の効果及び活用方法	<p>（効果）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今回開発する手法が現場レベルで定着することにより、通所・訪問リハのサービスが、より質の高い事業所の取り組みに収斂し、リハの質向上と標準化が達成される。 <p>（活用方法）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本事業で提案する内容は、VISITの運用そのものに活用されるものと考えている。 ・得られた知見及び内容は大学のHP等で公開する。

調 査 事 業 計 画 書

調 査 名		VISITデータのフィードバック方法等の検証及び評価
調 査 対 象	調 査 対 象 地 区	リハ3職種の職能団体、有識者会議にて推薦を受けた訪問・通所リハ事業所 約20か所
	調 査 対 象 者 等	同事業所の管理者、リハ職及び利用者
	悉 皆 ・ 抽 出 の 別	(悉皆・抽出) (抽出の場合は抽出方法) ・管理者、リハ職に関しては、協力事業所の全員を対象とする。 ・利用者に関しては、各リハ職の担当利用者(研究への同意があった者)から 抽出する(調査日の利用者の1/2抽出)。
	調 査 方 法	(聞き取り、郵送等の方法を具体的に記入) 事業所でのインタビュー調査、作業部会での情報収集・ヒアリング アンケート調査
	調 査 客 体 数	約20事業所
調 査 内 容	(主要調査事項及び内容) フィードバックの内容や方法の素案を委員会で検討した上で、同案に対する意見や要望 を収集・分析する。	
調 査 時 期	内示日から平成31年1月31日	
調 査 結 果 の 主 要 集 計 項 目	・フィードバック内容及び方法に対する評価	
調 査 結 果 の 活 用 法	本調査結果に関しては、委員会及び作業部会で報告し、全国データの分析方法、事 業所及び利用者への効果的な情報フィードバック方法に関する検討の参考資料と する。また、報告書の一部として活用する。	
そ の 他 参 考 事 項		